

# アサギマダラの食草の展示について

佐藤祐輔・向井昭彦

バタフライガーデンでアサギマダラの食草の展示を行ったので記録する。また、アサギマダラの産卵も確認されたので記録する。

## はじめに

アサギマダラはマダラチョウ科に属するチョウで、渡りをするチョウとして知られている。さらに、フジバカマやヒヨドリバナ（キク科）、スナビキソウ（ムラサキ科）などの特定の植物を好んで訪花することも知られている。

一方で、アサギマダラの幼虫がキジョランやイケマ（キョウチクトウ科ガガイモ亜科）などの植物を食べることはあまり知られていない。それどころか、前述のフジバカマやヒヨドリバナなど訪花する植物（吸蜜植物）をアサギマダラの幼虫が食べる植物（食草）であるという誤った認識をしている人も少なくない。

そこで、アサギマダラの正しい食草を示し、生き物と植物の関係を正しく認識してもらうため、バタフライガーデンでアサギマダラの食草のキジョランとイケマの展示を行った。

## 展示概要

バタフライガーデンに一部区画を設け、キジョラン3鉢とイケマ2鉢の合計5鉢の食草を解説パネルとともに展示した（写真1）。

## アサギマダラの産卵について

上記展示を行っていたところ、10月28日にキジョランとイケマの両方に合計10卵以上の卵を確認した（写真2）。その後、11月19日に孵化を確認した（写真3）。

## 所感

アサギマダラの幼虫の生育温度の下限が約10℃であるとされており（河邊2002）、当園のように冬期に気温が生育温度以下になる場所でも食草があれば産卵を行うことがわかった。

また、アサギマダラの幼虫の生存限界は-7℃とされているため（河邊2002）、当園においてアサギマダラの卵から成虫までの全成長段階を食草とともに展示することができると考えられる。

イケマ、キジョランとアサギマダラの関係の

みならず、来園者に対して様々な植物と生き物の関係を広く認識できる取り組みを行うことができれば良いと考えられる。

## 引用文献

河邊誠一郎 2002. 生育温度からみた

*Parantica sita nipponica* Moore (アサギマダラ) の生態と行動予測. 倉敷芸術科学大学紀要, 7:71-83.



写真1 食草の展示風景



写真2 イケマの葉裏に産み付けられた卵



写真3 卵殻を摂食する孵化幼虫